

地域貢献チーム Shimotan としてレスリングを 通した地域社会との実践報告

渡 邊 義 明

A practice report in local communities through Wrestling as a
regional contribution activities by Shimonoseki Junior College
by
Yoshiaki Watanabe

要旨

本稿は、豊浦高等学校から下関短期大学と継続し、レスリングを通した地域貢献として取り組んでいる TOYORAKIDS レスリングチーム（WARRIORS）の実践報告である。

WARRIORS を立ち上げたきっかけは、休日の部活動指導の「地域移行」による実施主体変更、本県における全国体力テストの結果並びに少年競技力の低下、地域社会の要請に応えるためであり、下関短期大学に結成した地域貢献チーム shimotan の一員として実践した。

WARRIORS を立ち上げた目的は、地域の子どもたち・保護者のスポーツの場、スポーツ能力に優れた子どもの発掘・育成、発育期における身体活動の重要性、スポーツの楽しさを体感し、子どもたちの夢の実現、本学保育学科学生の指導養成である。

本稿で紹介した内容は、これまでの経験に基づいた現段階での報告であり、十分な検証・総括等があるわけではなく途中段階であるが、本活動は、指導者と子ども、指導者と保護者からスタートする中において、具体的に体現することにより地域の子どもたちのスポーツの場となっている。発展として健康への関心の高まりを受け、子ども・保護者・本学学生の3者での活動が定期的開催できている、このことだけでも大きな成果であると考えている。

キーワード：地域貢献、広報活動、子どもの身体活動の意義、

身体能力開発トレーニング、専門競技トレーニング、幼児と身体表現

1 はじめに

現代社会における多様なライフスタイル、価値観が見られる中、スポーツ界においてもその影響は顕著に表れている。

さて、今年度から中学校において、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革として、中央教育審議会答申や公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が提案されている。休日の部活指導の「地域移行」を2023～25年度の3年間で達成する¹⁾とあり、休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する動きがスタートする。実施主体は、総合型地域スポーツクラブや民間事業者、プロスポーツチームなどが想定されている。

そのため、今後、手軽に子どもから大人まで種目・レベルに合わせた一貫指導体制の整った地域スポーツクラブが必要である。

また、山口県スポーツ推進計画²⁾においても、「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」を目指しており、スポーツは、心身の健全な発達や健康・体力増進のみならず、人々に大きな夢や感動を与え、地域の一体感や活力を醸成し、人や地域間の交流を促進するなど、様々な効力を有している。

さらに、本学園経営改善計画（中期計画）において、地域社会の要請に応えるための「教育の質」の向上を重要視し、本学園が地域社会で支持される学園であり続けるためには、時代・社会の変化に対応した教育活動が求められるとある。教員及び学生の社会貢献を全学で計画的・積極的に進めていく必要がある。

したがって、以上の趣旨に沿って、下関短期大学にて結成した地域貢献チーム shimotan の一員として、保護者・地域社会と連携してのレスリング競技を通じた子どもの活動実践をスタートした。

2 広報活動

レスリング競技は比較的マイナーな競技であり、オリンピック等の国際大会でのメダル獲得数は高いが、日頃の認知度においてはやや低迷状態が見られる。まして、格闘技であり怪我等のリスクも想定され競技人口の確保は大きな課題である。

まず、下関市民に広く活動の趣旨を周知するため、以下、広報、募集に力を注いだことについて記す。

【広報】

広報・募集活動については、チラシ（写真1）の作成、近隣店舗に掲示、配布を行うとともに報道機関による積極的な広報活動を行った。

① 2021.4.19（月）Jチャンやまぐち：「始動！ちびっこレスリング教室」³⁾（写真2）

② 2021.5.24（月）山口新聞：「キッズレスリング目指せ「金」」⁴⁾（写真3）

チーム「ウォーリアーズ」豊浦高等学校レスリング部員が指導
（以下、「豊高」という）

③ 2022.6.25（土）COME ON！FM（カモンエフエム）：「波田陽区の侍フェニックス」⁵⁾

④ 2022.12.11（日）山口新聞：子どもの身体能力楽しく磨け下関短大の実践好評⁶⁾（写真4）



写真1 募集チラシ



写真2 Jチャンやまぐち



写真3 山口新聞



写真4 山口新聞

広報に関する報道は、カモンエフエムのラジオ取材による「波田陽区の侍フェニックス」コーナーで6月15日収録、6月25日に放送された。収録は10分×2、前半と後半に分けて、20分程度の時間となり、本活動を広報するための大きな放送媒体となった。

後半放送内容の一部において、本活動を紹介した。

波田陽区（パーソナリティ）、申徹也（制作担当）、渡邊義明（ゲスト）は次のように述べる。

（後半部分抜粋）

波田：引き続き、元豊浦高校の校長をされ、現在下関短期大学保育学科の教授をされている渡邊先生にお話を聞く。

申：豊高当時は体育の教員でその時取り組んでいたのがレスリングか。

渡邊：10年在籍の内、2年目にやりたい生徒を集めて同好会としてスタートした。

申：レスリング部が立ち上がって、活躍も多く見られるが。

渡邊：最近は良く頑張っている。

波田：渡邊先生が創設して、後輩に繋がっている。

申：特筆すべきは豊高の生徒だけではなく、地域の幼稚園・保育園・小学生・中学生の子ども向けのレスリングチーム TOYORAKIDS レスリングチーム (WARRIORS) (以下 WARRIORS という) ができて活動を行っている。

波田：地域の方ができるようになっている。これについてご説明を。

渡邊：立ち上げの時から地域と密着した活動が出来たらと考えた。特にレスリングはマイナーな競技であり、地域に認められるよう活動を並行して行って来た。豊高に学校開放を依頼し、高校生も週1水曜日、子どもと一緒に活動を行っている。

申：レスリングの裾野が広がりメンバーも幼・小・中の男女での活動と聞く。

波田：この子どもさんが豊高に入ってくれば。

渡邊：それだけではない。幼少期にこういう活動を通して身体能力が上がれば良い。特にスタッフが充実しており、大学を出て戻り、教員となって指導に当たる。全日本チャンピオンもあり、最新の技術・科学的トレーニングを教えるので改めて積極的に広報させてもらう。

申：渡邊先生が種を蒔き、葉っぱが出て、花が咲こうとしている。

波田：自分らの時には野球しかなく、その後サッカーができ、レスリングのようなスポーツができれば良い。

申：いつかオリンピック・パラリンピックの選手が出れば。さらに、今年6月から下関短期大学の体育館でも活動を開始するとのこと。

渡邊：山口県体育協会医・科学サポートセンターの指導を受け、身体能力開発トレーニングを行う。レスリングの通常練習は週1、このトレーニングは月1で幼少期に必要な体づくりをする。保護者も子どもと一緒にトレーニングに積極的に参加する。下関短期大学保育学科のスポーツ同好会の学生7名がサポート役として参加する。相乗効果としていずれ保育者となるため、様々な子どもと時間を費やすことが有効である。

申：総合的に取り組んで楽しそう。苦しいこともあるだろうが楽しく取り組めそう。

渡邊：最終的には強くなる必要はない。子どもたちが人生100年時代において成長して行く中で、日常の生活において壁にぶつかった時にこの競技をやっていることで、自分でその壁を越えて前に進める人生であって欲しい。また、将来どの競技に進んでも良い。ただ幼少期にマット運動などの回転系の動きをすることは重要である。

申：体幹ですね。山口県・福岡県でもタレント発掘事業が行われている。長い間競技できるスポーツ選手としてのベースづくり。選手の養成はさることながら後進の指導養成、さらに下関短期大学の学生の指導養成となっている。

波田：今お聞きの親御さんで、お子さんを基礎体力づくりで WARRIORS に入ってみれば。
これからも先生、下関のために頑張ってください。

渡邊：今後とも、よろしく申し上げます。

このラジオ取材等の結果として、地道な広報活動が身を結び、少なからず興味・関心を得ることができたのである。

3 WARRIORS の活動内容

本章では、スポーツ能力に優れた子どもの発掘・育成として①身体能力開発トレーニング②専門競技トレーニング及び発育期の子どもにおける身体活動の重要性として③すべての運動の基礎となるトレーニングの活動内容等の詳細を報告する。

3・1 活動日等

<現状>

○通常活動日：原則毎週水曜日 18 時 45 分から 20 時 15 分まで

幼 児→ 18 時 45 分から 19 時 45 分まで

小・中学生→ 18 時 45 分から 20 時 15 分まで

○活動場所：山口県立豊浦高等学校レスリング場

○活動内容：マット運動、体力づくり、レスリングの基礎・実践

<発展>

○活動日：原則毎月 1 回土曜日 14 時から 15 時 30 分まで

○活動場所：下関短期大学体育館

○活動内容：山口県体育協会のジュニアアスリート事業を基に、発達段階に応じた正しいトレーニングの知識や方法の習得を目的としたトレーニングの実践

3・2 指導者

渡邊義明（代表・総括）	下関短期大学
秋本 瞭（ヘッドコーチ）	山口県立下関総合支援学校
下石晴明（アシスタントコーチ）	山口県立豊浦高等学校レスリング部監督
山本貴裕（アシスタントコーチ）	山口県立下関総合支援学校
一瀬 剣（アシスタントコーチ）	山口県立豊浦高等学校レスリング部コーチ
平田直之（アシスタントコーチ）	山口県立豊浦高校レスリング部 1 期生
豊浦高等学校レスリング部員・下関短期大学保育学科スポーツ同好会学生（スタッフ）	

3・3 活動の主なねらい

- 1 何事にも積極的にチャレンジする精神を育て、子どもたちの夢の実現をめざす。
 - 2 スポーツの楽しさを体感し、生涯にわたり人生を豊かにすることができるように育てる。
 - 3 将来の「糧」となるような指導を行い、人として成長することをめざす。
 - 4 優れた子どもの発掘・育成をめざす。
- ※ 将来的には、社会貢献やボランティア活動に努め、地域と共存して活動して行く意識を醸成する。

3・4 部員（令和4年度）

	男	女
幼児	1	3
小学生	17	2
中学生	1	0



写真5 練習前の集合

積極的な広報活動が実り、令和4年度は、幼児4・小学生19・中学生1 計24でスタートした。（写真5）

総合支援学校、小学校特別支援学級、子ども発達センターに在籍している子どもも含まれる。誰でも大切に取組む。

総合支援学校小学部在籍の子どもにおいては、日常の学校への登校がより意欲的・積極的になったとのことである。

3・5 保護者の本会活動への要望・期待

- ・あきらめない気持ちを育てて欲しい。得意なことを作って欲しい。
- ・体が硬い、体幹が弱いのでストレッチやトレーニングを教えて欲しい。
- ・常に指導者がついての少人数での練習で、試合に出場するレベルに。
- ・基礎体力の向上。（3人）
- ・挑戦する心意気を身につけて。
- ・自主的に動けるタイプではないので、自ら積極的に取り組んで欲しい。
- ・礼節とチャレンジ精神を身につけて欲しい。（3人）
- ・人並に運動できるようになって欲しい。
- ・のびのびと自分らしさが発揮できるよう頑張ってもらいたい。
- ・体力づくり、少しでも集団行動が出来るようになって欲しい。
- ・楽しみながら、壁にぶつかった時に周りに助けを求められるよう、自分で立ち向かって行

けるようになって欲しい。

- 運動を苦手と本人が思っているのに、楽しいと思って取り組んで欲しい。意志はしっかりと持っているのに否定せず受け入れて欲しい。
- 年齢や性別に関係なく人と関わることに期待している。体の使い方を身につけて欲しい。
- 他者との交流を大切に、毎日を楽しく過ごし成長して行って欲しい。

4 子どもの身体活動の意義

現代の子どもを取り巻く環境は、以前に比べて大きく変化している。塾や習い事のスケジュールが過密で、自由に外遊びをしたり、仲間とのコミュニケーションの場が減っている。

さらに、娯楽性の高いスマホアプリなどの出現が子どもたちを外遊びから遠ざけている。

幼少期の子どもにとって、身体活動を行うことは次の主に3点の意義があると考えられる。もちろん、本活動においても基本として取り組んでいるものである。

- 1 筋骨格系、神経系、呼吸循環系や内分泌系を発達させ、筋力やパワー、スピード、持久力、柔軟性を高める。
- 2 自分と他者、環境との関わりによりコミュニケーション能力を高める。
- 3 幼少期に体を動かす習慣を身につけることは、大人になってからも健康や体力の保持増進に努める影響を与える。

本会での目標の最優先は、レスリングを通してスポーツを行う際に、大きな怪我とならない基礎的な体幹づくりを実践する。人生のスタート期にきちんとした教育をすることが大切で、字や数を教えることだけではなく遊び（本活動）を通し、人間関係や創造性を身につけて行く活動である。

幼少期、特に幼児期は心身全体を働かせて様々な活動を行うので、何事にも積極的に取り組む意欲（心理的）を育み、豊かな人生を送るための基盤づくり（生活習慣）となる。

4・1 子どもたちの発達段階に応じて、すべての運動の基礎となる身体能力を向上させるトレーニングの重要性

上記テーマについて山口県高等学校体育連盟会長・山口県立西京高等学校校長齋藤英一郎氏は、次のように本活動及び本学保育学科学生指導に助言をしていただいた。

近年、子どもたちのスポーツ環境は大きく変わり、運動をする子とそうでない子が二極化している。また、運動に関わっている子どもたちの多くは一つの競技にのみ時間を割いている。その影響か、高校生時期ですでに競技特有のスポーツ障害を抱えている者や逆上がりやマット運動が全くできないアスリートも少なくない。数年前、陸上長距離において全国大会でも大活

躍した本県の選手は、中学校までは野球をやっていた選手であった。他の競技選手が何度も故障する中、故障なく高校スポーツを全うした。陸上競技だけをやってきた選手にない体とメンタルの強さを持っており、今も大学で活躍している。

幼児～中学生までは、神経系の発育が著しく、骨や筋肉はまだ成長している段階だ。一つの競技に偏らず、多様な競技やトレーニングをすることによって神経系の発育を促し、故障の少ない体をつくり、高校スポーツで花を咲かせる土台作りをして欲しいと願っている。

つまり、これはまさに WARRIORS が目指し、取り組んで行く目標である。子どもが体を動かしたくなる「場・しかけ」の重要性は言うまでもなく、子どもを取り巻く人的環境、友達や保護者、そして指導者や地域の人々との関わりで決まる。その意味で我々指導者は正しい知識・技能の伝授はもちろん、保護者・地域社会との連携を密にして取り組む責任がある。

なお、トレーニングには身体能力開発トレーニングと専門競技トレーニングに選別し、さらに「生活習慣の見直し」も行っている。

5 身体能力開発トレーニング

子どもたちの発達段階に応じて、全ての運動の基礎となる身体能力を向上させるトレーニングを行うことが重要である。主に通常活動日でのマットでの練習においては、前転・後転・開脚前転・開脚後転などのマット運動（写真6）を繰り返す。興味を持たせるため、コーンを用いたトレーニング（写真7）も徹底して行う。月1回の活動はマットを降りての体育館内での基礎体力トレーニングの走運動（写真8）である。本活動においては、地道な基礎体力づくりを軸に取り組んでいる。



写真6 マット運動



写真7 トレーニング



写真8 走運動

5・1 全国体力テスト（2021年度）の結果

スポーツ庁が小学5年生、中学2年生の各男女で、実技テスト8種目で算出する体力合計点全国順位⁷⁾を発表した。県別の順位はもとより、全国平均は前回調査の数値を下回っており、新型コロナウイルスの影響で子どもの体力低下に拍車がかかったと考えるが、我々地域社会の指導者は競技の勝利主義に走る前に、徹底した基礎体力づくり・身体能力開発トレーニングに

徹することが重要である。

全国体力テストの山口県の順位は、小学5年男子→46位、小学5年女子→41位、中学2年男子→39位、中学2年女子→36位である。

それでは、指導者は子どもの動きをどのように観察・評価し、どのような箇所に注目すればよいか、動きの中での正しい着眼点をもつことが重要である。スポーツの基礎となる動作（走る・跳ぶ・投げる）の3領域の基本は押さえつつ、日常生活に密着した動作（立つ・歩く・持ち上げる）はもちろん、最終的には自分の身を守るための動作（転がる・よける・水に浮く）となる。しかしながら、競技力向上を高めて行くためには実践に沿った技術練習を実施しなければ、時間がいくらあっても足りないとの焦りが生じる。しかし、基礎体力が確立されていないまま先に進むと、子どもたちの多くに故障というブレーキがかかる。

また、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年度と比べて持久力を測る調査項目で成績低下が顕著であり、外出や運動機会の減少が影響していると推測する。

5・2 生活習慣の見直し

コロナ禍が長期化する中、指導者は感染症対策を講じながら一層子どもをスポーツや体を動かす遊びに導く工夫が大事である。テレビやスマートフォンの視聴時間が長いほど、体力は低下することになる。本会では子どもたちに体幹トレーニングの宿題的なものを課し、興味を持ち、継続的な実践の積み重ねを行っている。今後、スマートフォンのアプリを活用したり、気軽な体操教室を設けたりして取り組めるプログラムを提供したいと考えている。感染再拡大に備え、日常の生活習慣として定着させられるかが重要となる。

6 専門競技トレーニング

通常活動日週1日において、マット運動を中心にレスリングの基礎を習得する。柔軟な身体づくりを基盤に基礎体力を向上させる。特に、実践練習を取り入れている。(写真9～11)



写真9 スパーリング



写真10 タックル練習



写真11 技の習得

6・1 ジュニアからの育成・強化

競技力の指針を見極めるため、国民体育大会における県別の39競技・種別得点の合計点を競う天皇杯・皇后杯がある。本県の順位は2011年やまぐち国体において2220.5点を上げ、1位となり悲願の天皇杯獲得⁸⁾となった。当時、競技力向上対策委員として業務していた際において、本県の少年競技の底上げは至難の業であった。各競技団体スタッフとの協議を繰り返して、長期的なスケジュールの基、医・科学トレーニングを実施し、ジュニア期からの計画的な強化を繰り返した積み重ねのおかげで大きな成果が残せた。

しかしながら、直近の栃木国体においては38位と精彩を欠き、本県競技力向上においては、大きな課題を残している。

また、レスリング競技においては、ジュニア期から継続的に競技を実施している子どもの上位入賞が顕著である。山口国体終了後の競技力向上維持のため、やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター（光市）を拠点に、レスリング・セーリング・フェンシングの3競技に特化したYAMAGUCHIジュニアアスリートアカデミー⁹⁾として、継続しての競技力向上に取り組む場の提供があり、素晴らしい環境である。

以下の選手は、徳山ちびっ子レスリングの地域チームで育った選手（写真12）で、今年度豊浦高校在籍中に活躍した選手である。いずれも5歳の幼少期から競技をスタートしている。



左：全国高校総体 55kg級第5位

右：全国中学校チャンピオン

全国高校選抜 80kg級第2位

栃木国体 80kg級第2位

写真12 ジュニアからの優秀選手

なお、WARRIORSの強化理念は文武両道である。それは幼児から高校まで考え方は一緒である。したがって、通常日の練習日は週1回である。特に小・中・高は学業が一番である。知性・教養を身につけることが、将来どの道に進めるかの可能性を示す鍵となり、人生の選択肢を広げる鍵と考えるからである。高校で終了せずさらに大学進学に繋げ、そこでレスリング競技を継続し、成績を上げ有意義な人生を送られることが最終目標であるからだ。

本会ジュニア選手が11月6日（日）に初めての試合に出場した。（写真13～15）



写真13 開会式（中央）



写真14 試合①



写真15 試合②

今後も、育成プログラムとして、身体能力開発プログラムと専門競技プログラムを並行したトレーニングを行うとともに、常に関係機関と連携し、チームネーム WARRIORS の精神（武士）の基、選手・保護者・地域社会に認められ評価される活動を行っていきたい。

7 幼児と身体表現

幼稚園教育要領¹⁰⁾、保育所保育指針¹¹⁾、幼保連携型こども園教育・保育要領¹²⁾において、表現については、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」と示されている。

本学授業「幼児と身体表現」・教育活動には、国（文部科学省）や日本スポーツ協会、各競技団体から公表されている子どもの発育期の運動・スポーツに関するガイドライン（指針）¹³⁾を注視しての授業展開を行っている。

7・1 保育学科2年生「幼児と身体表現」の授業

幼児期運動指針・ガイドブック¹⁴⁾は、「生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための運動習慣の基盤づくりとして、幼児期の多様な動きの獲得をはじめとする体力・運動能力の基盤を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育む」ことを目的としている。

本学学生の授業において、まずは①多様な動きが経験できるように様々な遊びの引き出しを取り入れる。②楽しく体を動かす時間を確保する。③発育発達の特性にに応じた遊びを提供する。以上、3点について実践を行った。（写真16～18）



写真16 授業①



写真17 授業②



写真18 授業③

授業を受けた学生の主な意見・感想をあげる。

- ・楽しく遊ぶことを通して活動量と活動強度を確保することができ、多様な動きを経験することに繋がる。
- ・できるようになったことを認めたり、褒めたりすることで自信や達成感を得ることになる。
- ・まずは、身体活動を行うことで子どもの健康に繋がる。友達と遊ぶことでコミュニケーション・協調性が芽生える。
- ・身体表現は子どもの発達状況に合わせて進めて行くことが大切である。一人ひとりの発達に合わせて、今日より明日に向かって一つでも多くの子どもが出来るようになることである。
- ・保護者と共に成長の喜びを味わえるように導いて行けるような保育がしたい。
- ・保育者が楽しい姿で表現することは子ども自身の意欲ややる気に繋がる。身体活動を苦手としている子どもも楽しく行動できるように努めたい。
- ・成功体験をたくさん経験させることで自信に繋がりながら、身体活動の楽しさをわかしてもらおう。発達期には心と身体を動かすことはとても大切なこと。精神的な強さにも繋がる。
- ・身体を動かすことで健康的な体に繋がるし、危機管理や予測ができるようになる。

と種々の意見・感想を得た。

これらの意見・感想より成果と課題をまとめた。

- ・多様な動きの引き出しを持つことで、子どもが飽きてしまう前に、次々とプログラムを展開することができるようになった。
- ・実際に子どもと一緒にプログラムを行っていないため、子どもの動線、経験値に欠けることとなり、体験実習・教育実習・保育実習・施設実習等の中での経験が重要である。

7・2 学友会部活動スポーツ同好会の活動

スポーツ同好会の保育学科2年1名、1年6名、計7名が活動の一環として月1回（3月現在、10回開催済み）の子ども・保護者の身体能力開発トレーニングにスタッフとして参加している。実際に子どもと一緒にプログラムを共に行うことによって、子どもたちはもちろん、保護者との接点も多く、地域貢献はもちろん、7・1での課題が解消され、保育者に向けての実践的な経験活動の場である。（写真19～21）



写真19 基礎体力づくり



写真20 走トレーニング



写真21 ボール運動

同好会参加者の主な意見・感想をあげる。

- ・子どもたちと接してみると、一人ひとりが自分というものがすごくあるし、意見をはっきり言うなと感じる。
- ・体を動かすことで違う年齢の子たちと触れ合うことは、保育者になってからも大事なことだと思う。活動内容は、リトミックの前など導入としても使えると思う。
- ・一人ひとりの成長が違うので少し関わるのが難しい。
- ・一人につきっきりになってしまい、全体のことが観察できていない時がある。
- ・2年生の先輩の関わり方を見て、子どもの接し方が上手で目標として頑張る。
- ・個性の強い子どもが多く、どのように関わったら良いか分からない。子どもに寄り添って頑張りたい。
- ・子どもたちのやりたいことを尊重してあげることが大切だと思った。保育者になった時の接し方や関わり方などに活かして行きたいと思う。

と種々の意見・感想を得た。

これらの意見・感想より成果と課題をまとめた。

- ・子ども・保護者と実際に関わることができ、貴重な体験学習となる。子どもはもちろん保護者との会話もあり、コミュニケーション能力が身につくと思われる。
- ・まだまだ経験値が少ないため、全体を見通しての活動内容を消化できない。
- ・動きの上達を見極め、評価できるようにする。
- ・保育者の観点として肯定的な言葉を積み重ね、成長点を認める。
- ・安心・安全な活動に努めるため、場所の設定・施設や用具等の確認・緊急対応・新型コロナウイルス感染症予防対策・熱中症等予防の安全管理を確立する。

8 おわりに

地域貢献は人との繋がりから始まる。本活動においては、指導者と子ども、指導者と保護者からスタートする中において、具体的に体現することにより地域の子どものためのスポーツの場となっている。発展として健康への関心の高まりを受け、子ども・保護者・本学学生の3者で

の身体能力開発トレーニング（写真 22）が定期的に行われていることは、大きな成果である。

さて、身体能力開発・専門競技・運動能力トレーニング活動を2年間行うにおいて、多くの人との繋がりを得ることができた。具体的には、部員募集のために近隣の保育施設を訪問した際、本学教員の関係が多く、地域貢献を発展させるスタートの大切な縁となった。

また、2021 年度文部科学省の問題行動・不登校調査¹⁵⁾において、小中不登校急増過去最多の24万人、小中高などが認知したいじめは61万人で最多と発表された。家庭や地域、専門家との連携を深め、これまで以上に子どもたちに関わる必要がある。その意味でも、未来を拓くたくましい子どもたちを預かる本会の活動の責任は大きい。これからもレスリングの競技に限らず、子どもたち・学生の活動範囲を学校に留めることなく、コロナ禍ではあるが安心・安全を最優先に、地域の方とともに積極的に様々な取り組みを計画する。

なお、本稿で紹介した内容は、これまでの経験に基づいた現段階での報告のみとなり、十分な検証・総括等があるわけでもなく途中段階である。今後、更なる発展を試みたい。しかしながら、指導者として本会の取り組みを少しでも役立てていただければ幸せな限りである。

最後に、本学園創設者河野タカ先生の訓に「言葉は心の聲」、「動作は心の動き」、「肉体は心の姿」とある。スポーツの指導者として大切にしたい。創立60周年の下関短期大学の一員として、これからも地域の構成員の一人として、地域に必要とされ、認められるよう、今後も子ども・学生とともに努力して行く覚悟である。

取り分け本会の活動においては、引き続き、ご指導・ご鞭撻をお願いしたい。



写真 22 3者による体操

引用・参考文献

- 1) 山口新聞：「休日部活動指導地域で」中学校運動部、23～25年度目標 2022.4.27（朝刊）
- 2) 山口県：山口県スポーツ推進計画改定版 2018.11、<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/96/13957.html>
- 3) 山口朝日放送 J チャンやまぐち：「始動！ちびっ子レスリング教室」2021.4.19
- 4) 山口新聞：「キッズレスリング目指せ「金」」チーム「ウォーリアーズ」2021.5.24（朝刊）
- 5) COME ON！FM（カモンエフエム）：「波田陽区の侍フェニックス」2022.6.25

- 6) 山口新聞：「子どもの身体能力楽しく磨け」下関短大の実践好評 2022.12.11（朝刊）
- 7) スポーツ庁「2021年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」2022.10.12、
<https://www.mext.go.jp/sports/b-menu/houdou/2020/1421919-00002.htm>
- 8) 山口県競技力対策本部：「山口国体総合優勝の軌跡」2012
- 9) やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター：山口県タレント発掘・育成事業
YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミーにおけるこれまで（2009～2020）の検証・総括と今後の方向性 2020.8、<http://yamaguchi-taikyo.jp/>
- 10) 文部科学省：幼稚園教育要領 2017
- 11) 厚生労働省：保育所保育指針 2017
- 12) 内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 2017
- 13) 日本スポーツ協会：「発育期のスポーツ活動ガイドライン」2021、
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1319.html>
- 14) 文部科学省：「幼児期運動指針」「幼児期運動指針ガイドブック」2012、
<https://www.mext.go.jp/a-menu/sports/unclousisin/1319771.htm>
<https://www.mext.go.jp/a-menu/sports/unclousisin/1319772.htm>
- 15) 文部科学省：「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する結果
2022.10.27、
<https://www.mext.go.jp/a-menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm>